

## 車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：伊太区自治会

開催場所：梅の里伊太コミュニティセンター

開催日時：平成 29 年 2 月 10 日（金）18 時 57 分～20 時 35 分

参加者：自治会側【地域住民の方 37 人】

市側【染谷市長、濱田教育長、牛尾理事、北川産業観光部長、畑教育部長、水野スポーツ振興課長、高橋学校給食課長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、酒匂協働推進課主査】

### 内 容

#### ① 佐野自治会長あいさつ

・市長に出向いていただいてお話をする機会をいただいた。新聞に伊太の記事を掲載いただいた。記事だけではなかなか分からない部分もあるが、本日は市長からその辺のことも含めてお話いただけるのではないかと期待している。

この伊太が賑わいを持っていくにはどうしたらいいか、市と我々がどのように足並を揃えていくか、そういったこともあって、このような機会を作っていただいているというように理解している。

伊太の場合は、自治会だけでなく、ふるさと伊太を明るくする会、老人会のみなさん、PTA のみなさん、民生委員のみなさんと足並みを揃えながらここまで歩んできている。

これからも今以上に賑わいのある伊太をつくっていくために、我々も努力するが、市のみなさんからもご指導いただかないといけないと考えている。

本日は市のみなさんの考えを伺いたいと思っており、私からも 7 項目の質問を市長に手渡してある。市長はそこを踏まえて、担当課にも確認してきていただいて、本日お話をいただけると理解している。

#### ② 市長からの市政報告

##### ■はじめに

・市長と語る会は今日で 60 回目。3 月の末までになんとか終わらせたいと思っている。この 68 の自治会を周るというのは、私にとっても修行の場である。

・地域によって課題が違えば、みなさんの考えていらっしゃることも違う。みずから肌で感じて直接ご意見を伺うことができ、ほんとうにありがたいと思っている。

・28、29 年度の 2 ヶ年をかけて、平成 30 年度からの島田市第二次総合計画というものを策定していく。そして 29 年度にかけて土地利用計画、中心市街地活性化計画と、この先 10 年を見据えた島田市の設計図のようなものをつくるといった段階にあり、ぜひとも地域のみなさんから直接お話を伺って、それを

これらの計画の中に反映させたいというのが私の思いである。

#### ■行政（政治）の役割が変わってきていることについて

・市長になって今年で4年目。この4年の間にずいぶん大きな動きがあった。今日本中を騒がせている一番の問題は人口減少である。人口減少と超高齢社会の到来、そして子どもの数が少なくなっていく、このことが日本中ですごく大きな課題になってきている。

・子どもの数が減ってきたのは、1975年からである。しかし、その頃から寿命が延びてきた。戦後は51歳ぐらいの寿命だったのに、今は87歳まで寿命が延びている。

・そういう中で人口全体は減らなかった。今から3年ほど前に、日本創生会議の増田レポートというのが出て、全国で1700の自治体がある中で、このままいくと40年後にはそのうちの49.6%のまちが消滅してなくなっているかもしれないというショッキングなレポートが出て、そこから一気に地方創生の流れが始まった。

・地方創生とは地域の振興策を競うことではない。本当の目的は、人口の一極集中を減らしてできるだけ地方に住んでもらうことで子どもを産み育てやすくする。要するに、人口減少にどうやって歯止めをかけるかというのが、地方創生の目的である。そのために各市町がいろいろな施策をやっているが、5年や10年で結果は出ない。やはりそれなりの長い年月がかかる。島田の場合は、今の約10万人の人口が、2040年頃には8万数千人になるのではないかとされている。

・高齢化の波は2040年まででピークを迎える。今はまだ高齢化が3割弱。これが4割ちょっと超えるぐらいまでいくのではないかという時代になった。扶助費といって医療費や介護、福祉などにかかるお金が、以前は3割ぐらいで済んでいたのが、今年は34%ぐらいまで全体の中で占めるようになった。

・みんなでこれからのまちを考えていかなければいけない時代になった。

・もう一つ世の中が大きく変わったのは、私達が若い頃は、明日は今日よりもよくなり、給料も上がっていくし、一生懸命働けば家も買えたし、子どもを大学に出して、老後は二人でなんとか暮らせる貯金もできたという時代だったので、行政も収入が増えていった。企業もどんどん大きくなるし、いろいろな国からの交付金等もあった。

・行政の収入が上がっていく時代には、将来に多少の負担を残しても、将来の人達がちゃんと返してくれるということで、どんどん投資をしているいろいろな物を造ってきた。道路も橋も公共施設もそうだし、たくさんの箱物の整備をしてきた。

・しかし、これからの時代はどうか。ずっと同じ所で働き続けて、ずっと給料が上がっていくということはない時代になり、行政も、人口が減っていくので、収入も減っていく。今は6割強の人が働いて税金を納めてくれている。でも2040年になると、だいたい半分ぐらいの人が税金を納める人で、残りの半分ぐらいの人はいろいろな意味で世話になる人達になる。そうすると賢く選択してお金を使っていかないと、将来に大きな負担を残したのでは、島田に住む次の若い世代の人達にとって、やはり明るい未来は描けない。

・この4年間で、最初は人口の極端な減少の中で日本の社会が大きく変わるということがあまり騒がれていなかったが、この4年間を見てみると、まさに

島田市が4年前に選択したこと、財政の健全化の目途を立てていくこと、公平公正な市政を運営していくこと、情報をしっかり開示していくこと、広域行政を推進していくこと、こういったことはやはり時代の流れの中では正しかったと私は思っています。

・今日は、そういった時代の流れにあって、昔は行政にお願いしておけばよかったし、議員さんにお願いすればいろいろなことができた。でもだんだんとそうではない時代になってきた。行政の役割も変わってきた。

・行政の役割は、例えば昔なら民間でどんどんいろいろなことができていたので、規制をかけて、ここからこちらは住宅地ですよとか、こっちは工場地帯ですよということをやったり、様々な行政の仕事があったが、逆に今はいかに民間の方々にやりやすく仕事をしてもらうか、規制緩和であったり民間のお手伝いであったりといったことが行政の役割になった。かつ、いろいろな施策において市民の皆様に納得いただける情報の開示、説明の仕方をすることが行政の仕事になった。まさに民間と同じだと私は思っている。職員にも行政は究極のサービス業だとよく言っている。お客様である市民のみなさんの顔が見える仕事をしなさいう話をしている。

・そういう中で私が地域にお願いしているのが、行政も一生懸命やるが、行政と一緒に市民のみなさんも地域の課題について、自分達で解決していこう、自分達も一緒になってやっていこうといった、協働のまちづくりをしたいということを言っている。

・先日、29年度の経営方針というものを決め、4つの基本理念をつくった。

・一つ目は市民ファーストのまちづくり。

・二つ目は効果や成果を検証しながらスクラップ&ビルドといって、何か一つ新しいことを始めるなら、何か一つ削るぐらいの気持ちでないと財政的にも財源を生み出せないし、役所もなかなか大変になっていくため、スクラップ&ビルドを徹底するということ。

・三つ目は島田らしさを追求するということ。みなさんは島田がどんな町と聞かれた時に、うちのまちはこんなまちだと言えるのか。伊太は梅でまちづくりをしていると言えると思う。SLが走るまちと言う人もいると思うし、島田大祭のまちと言う人もいると思う。川越遺跡が残るまちだという人もいると思うし、東名や新東名などのいろいろな道路の結節点、空港があるまちだという人もいるかもしれない。わがまちを語れるということは市民にとっても行政にとっても大事だし、島田らしさを追求するまちづくりをしますということ。

・四つ目は、市民とともに協働のまちづくりをしていこうということ。市民と一緒にやっていくということを念頭において、行政の事業展開をしていこうということ。

・そんな中で少し具体的に話をすると、入館者150万人を達成した伊太和里の湯は地元の方々にやっていただいている。また、梅のまちづくりということで、まさに伊太は梅の名所ということで知名度もあがっているし、学校の教育においても様々な意味で、伊太小は伊太の子ども達を育てるという地域の方のご協力でいい教育ができていると思う。

・こういった自分達のまちの課題を見つけて、どのようにまちを作っていくかということの中で、いくつかの事例をお話します。

・六合の道悦島では、高齢者が多くなってきて、蛍光灯を換えたり庭で草むしりしたりすることがとても大変になってきている。まだ働ける人は、大変な人を助けましょうということで、1時間500円の券を作った。この券をご高齢の方が買って、お手伝いしてもらったらこの券を渡す。お手伝いした人はこ

れを地域の中で換金できるというもの。

- ・ある地域では放課後に子ども達を集めて、大人の方たちが放課後児童クラブのようなことを施設の中で始めた地域もある。
- ・小規模校で放課後児童クラブがある学校まで5, 6キロあるので、子ども達が歩いていくには遠すぎるという時に、地域の方が毎日ローテーションでその地域の子供たちを学校に送ってくれているところもある。
- ・防災について自分達で体制固めをしているいろいろなことをやり始めたところもある。
- ・やはり地域の課題は、行政だけでは解決できない。特にこれから高齢者が多くなってくると、地域の見守りという意味では、地域のみなさんが、近所に誰が住んでいて、この頃顔を見ないけど元気であるかなというような、セーフティネットが働く地域をつくっていかなくてはならないと思っている。
- ・このまちに住んでいる幸福感、安心感、ここに住んでいてよかったという思いをやはり持たなければ、地元愛は育めない。そういったことをこれからのまちづくりにしっかりやっていきたいと思っている。

#### ■伊太区自治会の人口、世帯について

- ・伊太区自治会の1月31日現在の世帯数は687世帯、人口は1,818人で、高齢者人口は646人、高齢化率は35.5%となっている。市の平均が29.6%なので、5ポイントくらい高い。市内でも4割、5割の地域もある。15歳以下の人口は195人で人口に占める割合は10.7%となっている。市の平均は13.7%なのでいくらか子どもの数が少ない。総じて昔から住んでいる方が多いといえる。

#### ■伊太の陸上競技場の整備について

- ・平成29年度の一般会計予算366億1千万円ということで発表したが、その中で田代の郷については、市長になった時に陸上競技場を取りやめて、本当に市民にとって何がいいのかということをもう一度考えたいということで中止にした。
- ・今回、スポーツレクリエーション広場として整備をしていきたいという話をさせていただいた。これまでの経過を少しお話しすると、皆様とワークショップも開催したし、市内でもいろいろと検討してきたが、一番最初に検討課題であがってきたのは、民間の活力をもってあそこを活用することができないかということ。民間の方の意見も聞いていろいろと検討したが、最大のネックは水がないこと。伊太和里の湯にひいている水を上までポンプアップしても、夜間貯めた水ぐらいしか使えない。トイレや手を洗うぐらいならいいが、お風呂とか大規模なものについては、今度は下からもう一度水をひかなければならない。それで億単位のお金がかかってしまうということがわかった。そうなる、民間の開発もなかなか、採算ベースという意味でも難しい。
- ・市民の方とワークショップを開催したり、市内全域にアンケート調査も実施したが、この結果分かったことは、市民のみなさんが望むものとは、スポーツの施設ばかりではなくて、公園や多目的広場、児童公園、芝生広場、キャンプ場、こういったものの方がご希望が多かった。こうしたことも踏まえながら、市民にとって利用しやすいものということで、皆様方にもワークショップをしていただいた。
- ・陸上施設というのは、中高生が使うといっても車などの足がなければいけない場所であり、平日の昼間の稼働率とか土日の稼働率とかを考えると、やは

り温泉に遊びに来てくださる方、そこからハイキングを始める方、地元の方々、市民の多くの方々に利用していただける施設にしたいというのが私の強い思いであり、そうした中、子育て世代に特化した施策を私は行っており、子育て支援も県内で1、2だと思っているし、教育にも力を入れている。大学生や20歳前後の人は転出超過だが、子育て世代に関しては、島田はわずかに転入超過となっている。そういう所を見ていくとやはり、子育て世代に選んでもらえる、そういう島田にしなければならない。そういった意味でも今回の多目的のレクリエーション広場は皆様にご理解いただける施設になるのではないかとということでご提案させていただいた。

- ・掛川に大型の遊具がある施設があり、若い人達に人気があると聞いている。そういった大型の施設を最初に造って遊びのエリアとしていきたい。スポーツ広場と芝生のエリアは、今後皆様方と協議しながらどんなスポーツ広場にしていくのかを考えていきたいというのが発表したこと。

- ・しかしながら、議会からはかなりいろいろとご意見をいただいて、なぜ陸上競技場にしないのかとか、3年もかけてやるのはいかがか、1年でやったほうがいいとか、スポーツの団体の意見もしっかり聞いたのかとか、いろいろな意見をいただいている。

- ・今回の計画がきちっと進んでいくということは、市民の皆様のご指示があればこそだと思っている。先ほど市民と協働のまちづくりという話をしたが、ぱっとできたものは、素敵なものが出来たまで終わりだが、そこに自分が木を1本植えた、芝を一張り張ったというのはやはり愛着を産むと思う。なので、地元の方々にも手伝っていただきながら、伊太地域の名物に、遠くからも来ていただけるようなところにしていきたいというのが今の思いである。

- ・29年度は調査費の予算を計上している。今後、2年になるのか3年かかるのか4年かかるのかというところはまだ流動的だが、皆様方の思いをここに込めて、私自身は熔融炉ができた時から、伊太地区の皆様のお思いがあったというふうに感じている。

- ・そういったことも合わせて考えた時に、今回のこの場所に多目的のスポーツレクリエーション広場を造るという決定をしたので、ぜひご意見があれば聞かせていただき、後押しをしていただければありがたいというふうに思っている。

**■事前の質問に対する回答**

番号	事前質問内容	回答内容
1	<p>■伊太谷川左岸に設置している自転車道の整備状況が悪いので「島田樟誠高校」の生徒等自転車利用者が車道を通行しており、自動車交通障害になっている。自転車利用者が安心して利用できるよう整備をしていただきたい。(島田市火葬場から下流側まで。)</p>	<p>●自転車通学路の指導について、学校も行っているし、市も行っているし、交通安全協会も一生懸命行っている。横並びで走らないようになど、いろいろと注意喚起しているが、実際にこの話をいただいてから、担当が現場を確認させていただいたところ、道幅が1.5mの道路が整備されているが、ところどころ竹やぶが隣接する区間があるということで、竹の根が舗装をまくりあげているという所があったということであり、これについては河川管理者や関係部署と協議をしながら修繕を考えていきたい。</p>

2	<p>■市道伊太・尾川線、上伊太町内会から田代環境プラザ付近の側溝蓋が設置されていないので歩行者が危険。道路安全利用を計画していただきたい。また、慶福寺から天神原の間も同様の検討をされたい。</p>	<p>●道路の側溝や水路というのは、基本的には、落ち葉もたくさん詰まるし、土砂なども溜まるので、開渠といって蓋をしないのが基本ということ。路肩が概ね75cmで歩道が確保されていること、堆積による側溝の浚渫を定期的実施しているの、現状では今の所、蓋の設置は考えていないが、これから交通事情の変化もあると思うので、その時にはまた蓋の設置についても検討させていただきたいと思う。</p>
3	<p>■大井川左岸河川敷の木が伐採されているが、伐採したところをどのような利用をするのかわかる範囲で教えてほしい。</p>	<p>●国交省静岡河川事務所島田出張所が発注しており、赤松地先の所でやっている。県道にはみ出している交通の障害になるような樹木、それが流れて阻害して洪水になっていけない。それから木が生い茂っていると、不法に物を捨てていく、そういった不法投棄の抑制など、いろいろな意味があって、樹木の伐採の工事をしているところである。河川の維持管理のために伐採しているので、伐採したからそこを何かに使うとか、何かを建てるとかそういうことではない。</p>
4	<p>■耕作放棄地対策について、市としてどのように考えているか伺いたい。</p>	<p>●耕作放棄地の未然防止については、大変難しいことである。一生懸命農地整備をし、水を大地の上まで上げ、土地改良区で様々なことをやってきた。お茶がいい時はみんなこぞって農振をかけてもらいたかったが、茶葉の価格が低迷し、高齢化で跡継ぎもいないとなってきた時に、どうしても耕作ができなくなり放棄地が増えてきているというのも実情である。農業委員会ではこうした放棄地について、農地パトロール等を実施しており、現状がどうなっているか、またその放棄地をやってくれる人がいれば紹介するといった中間支援機構的なこともやっている。耕作放棄地の所有者に対しても、耕作を放棄しないで誰かに貸したり、どうしてもだめなら管理をきちっとしてもらおうようお願いしているところである。島田市としてこうした放棄地の対応ということで、担い手育成総合支援協議会や島田市農業委員会との連携をして、直接指導して、また、国からのいろいろな補助金や交付金を活用して耕作放棄地の水揚げ防止、そして発生したものをどうやって次の農地に変えていくかということを一生涯やっている。</p>

<p>5</p>	<p>■コミュニティバスの運行時間の変更を考えてほしい。時間帯によっては不便を生じている。運行時間の変更にはどのような流れがあるのか伺いたい。</p>	<p>●よくみなさんからコミバスを使いたいときには時間が悪くてなかなか使えない、その一方で空気を運んでいるのではないかというご批判もいただいたり、本当に公共交通としてコミバスを維持していくのか、足がない方のために福祉の観点からやっていくのか、これも一つの大きな選択であり、今、だいたい1年間で2億4千万円くらいコミバスの運営費にかけている。そうした中、このたび調査をした。使っていただく方は数万人いらっしゃるが、月に1回以上バスに乗る人の人数は、3,400人しかいないということだった。通勤・通学で毎日利用している方のみがコミバスを利用しているとしたら、換算すると767人しか使っていないということが分かった。このコミバスをどうするかという大きな課題が浮かび上がってきた。例えばゴミの処理、田代で処理して最終処分場に持って行く費用に14億3千万円くらい毎年かけているが、10万人で割ったら1人あたり14,300円である。コミバスは月に1回乗る人も合わせて3,400人なので、2億4千万円を3,400人で割ると、一人あたり70,600円。今後のコミバスをどのように運営していくのかがいいのかということは、本当に大きな課題である。本数が足りない、使い勝手が悪い、そういうお声もいただいているので、それは真摯に受け止めてやっているが、一方でこういう利用状況があるということ。できるだけ多くの方に利用してもらうように時間帯の設定をしているが、ただ勝手に変えられるわけではなくて、陸運局に申し出をしないと変更ができない。利用状況とか他の路線の乗り継ぎ等を検討して、バス事業者との協議を経て、変更案を島田市の地域公共交通会議で検討してから陸運局に出すという事となる。一日1往復増やすとどのくらい費用がかかるのかという試算をした。伊久身線の場合、1本増やすと年間に630万円増える。収入がそのうち100万円なので、1本増やすたびに530万円の赤字が出る。</p> <p>こういうことも合わせて考えた時に、例えば、バスの料金を200円にさせていただいている。ぜひみんなで利用しようというように地区ごとに盛</p>
----------	---	--

		<p>んになってくれば、コミバスも大手を振って走らせられるのかなと思うし、みなさんからお金がかかっても走らせてもらいたい施策なんだということであれば、本数を増やしていくこともあるだろうし、逆に、もう一つ私が地域にお願いしているのは、ワゴン車とガソリン代と保険料と運転する人の人工代は市が出すので、地域の中で車を走らせてもらえませんかということをお願いしている。</p> <p>これは北部の地域ですでに検討していただいているが、幹線のコミバスが走るところまでみなさんを連れてきてくれたり、1台で買い物を回すなどしてもらえませんかというお願いしているところ。ぜひ、コミバスだけではない、他の手段がないかというようなことも合わせてお考えいただきたい。デマンドタクシーといって乗り合いのタクシーのことも検討した。乗り合いのタクシーだと予約しなければならない。前の日から予約していないと乗れない。知らない人と狭いタクシーの中で乗り合うのは嫌だという方もいる。デマンドタクシーもいろいろと検討したが、難しいことも事実である。そうした中で地区の中で回すバスが走らせられないかということで、みなさんに御協力をいただいているところである。</p>
6	<p>■住民による地域づくりといわれても、地域住民・役員のアイデアや提案には限界がある。そこは、行政のプロパーとして、その視野の広さと嗅覚を地域住民の思いを汲み取り、企画・提案して地域づくりを積極的にサポートしていただきたい。市職員の専門性の発揮を切に切望します。(今後の市政運営のビジョンをお聞かせくださいという趣旨の質問)</p>	<p>●この4年間でやってきて感じていることと、これからまちをよくしていくためについてお話をさせていただく。</p> <p>一つには対立軸を生まない、そういった島田をつくりたい。対立軸というのは、お前があっちで俺はこっちだということをいつまでもやっていたら島田は力を削いでしまう。島田は一つになって大きな力を外に向けて発揮しなければならない。だから対立軸を生まない、そういう行政に心掛けるということで、大変苦しくても、議員の皆様にも同じように接してきたし、市民の皆様にもそうやってきたつもりでいる。</p> <p>そして二つ目は世代交代、これは若い人達を育てたい、行政の予算の中にお金が見える話ではない。しかしこれを自分の役割と思って、一生懸命4年間やってきた。いろいろな委員会とか市民会とかまちづくりのための</p>

集まりで市民のみなさんのご意見を聞くが、このうちの4～6割ぐらいは50歳以下ということでやってもらった。若い人達が多くなるとなかなか話がまとまらないが、年配の方たちが入ると最後はシャンシャンとまとめてくれる。だけど若い人達は事業に係ると様々なお手伝いをしてくれる。そういう若い人達を増やしていくことが、次の地域の担い手を作ることだと思っているから、それをしっかりやっていきたいと思う。

三つ目は市役所改革。市役所の組織の改革もそうだが、意識の改革も同じ。少しずつだが、よくなってきていると思っている。

地域のみなさんとのまちづくりということでは、たしかに地域のみなさんに全部任せるよと言っても、自分たちでは分からないよということあるかもしれない。でももしかしたらこんなふうにと考えたらどうか。こんなまちになったら困るよということのみなさんで考えていただいたら、例えばお年寄りが孤立していたら困るよとか、そうなったら困るよということは想像できる。だとしたら、それを防ぐためにどうしたらいいかということであったり、地域の特性を考えてもらったりしたらいいのかなと思う。

地域の特性ということで、最近面白い調査をしたが、65歳以上の人口とその人口で割った一人あたりの介護給付費と国保の医療費を小学校区単位で調べてみた。伊太地区の小学校区では、介護給付費が平均よりも年間で11,000円低かった。年間平均で180,000円という数値がでました。これは地域のみなさん方が高齢者の皆さん方に対して目配り気配り、それから行くところがあるということの表れである。一方で国保の医療費を見ますと、平均よりも少し高くて、一人当たり年間34万円という金額になった。14の地区で調べて8番目。これを調べて分かったことは、市民のみなさんの活動が活発な地域は医療費や介護給付費が低い。そういう居場所作りとか、地元の子どもの見守りもそうだが、そういうことがあまり行われていない地域は、総じて介護給付費も医療費も高いという数値がもの見事に出た。今、自治体の単位ごとに調べており、またお知らせをしたいと思う。

この地域がどんなふうになったらいいか、いろいろな話題の中で一つでも二つでも、ここは既に取り組んでいて、地域に還元する、伊太和里の湯のレストランの還元金も出している地域なので、それだけでもすごく大きな特徴のある地域ではあるが、みなさんにやれることを、次なる手を何かあれば考えていただけたらと思っている。

この4年間、大きく動いてきたのが、病院の建設です。平成19年には病院の構想も出ていたが、2転3転しながら、なかなか病院建設まで行かなかったが、この3月で基本設計まで進む。新たな病院が32年度の末までに完成させるということで、細かいところまで話が進んできている。来月には基本計画時点で247億円というようにお示しした金額について、もう少し精査したものを出せるかなというところ。なんとしても順調に進めていかなくてはならないと思っている。それから金谷の新東名周辺のインター周辺の土地利用、今、農振除外をかけているが、本当に高いハードルであるが、なんとか新年度の当初ぐらいまでには許認可がいただけるようにやってきた。オリンピックの前に賑わい交流拠点をオープンしたいということで動き始めている。

インター周辺も本来ならもっと早くから計画していてもよかったかもしれないが、この二つは大きく動き出した。それから金谷の金中跡地についても全く動かなかった土地であるが、一昨年アイデアコンペをして、昨年マーケットサウンディングの調査をして、有識者から提案をいただいている。水の流れを変えるという意味でも結果を出せたのかなと思っている。

広域行政という意味でも、志太三市の連携を、市長になってから毎年きちっと行っている。消防の広域化、スケールメリットを活かして、消防の常備体制も強化されたし、資機材も専門性の高いものを揃えることができるし、消防ヘリも常時飛ばすということもできるようになってきた。広域の連携の成果が現れているかなと思う。

この4年間で31億5千万円ほど借金を減らした。今初めて起債残高が

300 億円代になろうとしており、基金の方もかなり増えてきた。これらをもって、これから病院の建設、それからインター周辺の道路、その他インフラの整備、そして小中学校はどんどん老朽化していくので、そういったインフラの整備、公共施設もやっていかなければいけない。そして何より先月、市役所周辺整備検討委員会を立ち上げたが、市民会館が今なくなり、市民会館の機能をどう再生するか、市役所は築 54 年で、そろそろ考えないとならない。合併を重ねて職員が全部入れないという手狭な場所にもなっている。防災・災害時のことを考えるとやはり考えていかないといけない。一方、隣のプラザおおりは築 35 年。あと 20、30 年は使えると思うが、市民会館を新しくするとなると、おおりの機能と重なってしまうと思うし、このあたりをどうするのかということ。市役所の北側には職員駐車場、SL がある中央小公園というのもある。全部で 3 万 4 千平米あり、耐震性のない公文書の書庫等もありますので、検討を重ねたいと思っている。

なぜ 1 月に立ち上げたかということ、私としては、病院の方の事業がこれまでは議会からはオリンピックと同じ年に重なって建設費が高騰するのではないか、人工代が高くなって何十億も増えたらどうするんだということはずっと言われ続けてきたが、247 億円を下回る形で建てられそうであり、そういったことに目途が立ってきたので、市役所の方も検討していかなくてはならないと思っている。いつ頃までに建てるのかということについては、秋口くらいまでに結論を出したいと思っている。その理由は、平成 32 年度までに庁舎ができるなら合併特例債が使えるが、その後になると有利な起債を探していかなくてはならない。だんだんと市が単独で出していく部分が多くなり、そうした中、いつ頃の時期に建てるのか、どういう方式で建てるのか、こういったことを合わせて検討させていただきたいということで、立ち上げた検討委員会である。

今後、若い人達の意見を聞き入れられる場を作りたいということも強く思っており、それをやっていくことが次の 10 年にかける島田の勝負どこ

		<p>ろだと思っていて、これから先を考えると島田が1つになっていかに若い世代に世代交代ができるのかということが大きな課題になってくると思う。</p> <p>予算書には載らないことではあるが、それがここに住む人達を増やすことになると思うし、若い人達に大勢住んでもらえるまちにしたいなと思っている。</p>
--	--	---

### ③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■伊太和里の湯について、昨日 150 万人の利用者を達成した。食事処にも約 3 割程度（50 万人）の方にお見えいただいた。</p> <p>約 50 万食を提供したことになる。これは大きな自信になっている。開業の 3 年目から利益が上がってきており、区民にその利益を還元してきている。</p> <p>また、80%が地元雇用である。国の地方創生については中身や効果はわからないが、我々は 8 年も前から地域創生を進めていると自負している。</p> <p>是非行政でも PR をしていただければ、視察など来訪者が増えることも期待される。</p> <p>陸上競技場の跡地の構想は、こうした伊太区の取り組みにポテンシャルの高い施設整備がされることに感謝する。</p> <p>伊太区民とのワークショップでの住民意見を取り入れられていると思うし、区民の総意であるので是非実現してほしい。</p>	<p>●伊太和里の湯がみなさんの地域の活性化として使っていただいていること、本当にありがたく思う。ここが上手く行っているので、私は次に川根でキャンプ場を地元のみなさんにやってもらいたいという構想を持っているところである。みなさんの働いている姿を見て思うことは、雇われて働いている人と生き活きが違うこと。それから工夫をされており、伊太の梅を使ったおそばが総合 1 位になっている。麺類・ご飯類・おつまみいろいろジャンルがあって、それぞれ順位があって、総合の 1 位があって、書かれているが、あれを見て川根温泉でも真似するようにといい、川根温泉でも今はそのようになっている。</p> <p>お互いのいい所を真似しあいながら、共に伸びてほしい。それから伊太和里の湯は、あそこに車を置いて、ハイキングに行く方が大変多い。帰りにお湯に入ってご飯を食べて帰るといってお客が増えている。隣には老人憩いの広場の和みの里もあるので、こういった方の利用も増やしていきたいと思っている。今後とも伊太和里の湯の食事部門について、皆様のお力添えをいただきたいと思っている。</p>

2	<p>■陸上競技場の跡地の構想について、掛川の22世紀公園もいいが、伊太にいかねばならないもの、島田の目玉になるものを一緒になって考えていきたい。</p> <p>伊太小学校の児童が減ってきている。子育て世代を取り込める施策(空き家の活用など)をお願いしたい。</p>	<p>●空き家について、今、島田に住む応援金といって、130万円まで県外から来る方には、たとえリターンでも入ってくれる人には出しているが、考えてみれば新しい家を建てるよりも空き家がどんどん多くなってきているこの状況に、なんとか利活用が進まないと防犯上もいろんな意味で問題が生じてくる。29年度の予算から、空き家を使ってリフォームをして住んでくださる方には、最高200万円まで、これは島田市内の方でもOKということで、現金で100万円、残りの100万円は子どもがいる・いないで加算額が変わってくるが、最高200万円までの補助金を出したいということで、29年度の予算に入れている。2月議会で議決いただければ、4月からスタートすることになる。</p> <p>それから他にない施設については、日本一のすべり台の話が出ていることは、私も前から聞いている。すべり台は日本一といえるかどうかは分からないが、チャリム21というところにもあり、蓮華寺公園にも大きなすべり台がある。その稼働率を見るとすべり台だけではなかなか人が来ない。あんまり長すぎると、途中で止まってしまったり、途中で何かあったりして困るということもあって、すべり台も含む、よそにない多機能なものを造っていきたいと思っている。子育て中の世代の方にも自分達がほしいものということで聞いて話を進めてくれるとありがたいなと思っている。</p> <p>伊太の郷でなければ体験できないようなことをプラスアルファするということは、とても大事なことだと思っている。伊太の梅を植えるということも1つあるし、島田にしかない木を植えていくとか、何らかのやり方をまた考えていくと、伊太の郷らしい場所ができてくるのかなと思う。</p>
3	<p>■小学生の放課後の過ごし方に懸念している。児童は減ってきているが、放課後児童クラブの利用者が増えている。お迎えをしているが子どもたちが集るのに時間がかかることや、部屋が狭いこと、3校の児童が交じり合うことによる課題もある。長期休暇の時には、運営が大変。伊太小学校のプールは利用できない。ローズアリーナまで、島田駅経由で</p>	<p>●放課後児童クラブの状況については私もよく理解している。何とか29年度、30年度までには保育園の待機児童を0にするということで、29年中に0・1・2歳児の定員を80数名増やすということで、また放課後児童クラブについても、例えば第一小学校の所は増設で新しいものを造っており、第五小学校もやはり増設するということが、それから六合・初倉地区でも</p>

	<p>行っている。</p>	<p>増設するということで、今年中に全体で150人くらい放課後児童クラブの定員を増やしたいと思っている。ここは北部4校が集まっているところであり、それぞれの学校の到着時間が違ったり、ニーズが多くて手狭に感じたり、様々なことがあるということは私も理解している。一人あたり何平米という基準に沿ってやっているので、それで計算をして、定員というものが決まっています、目一杯入れて2割増くらいまではというところで、どこも受入れしてくださっていると思う。そういうことをやる一方で、例えば去年1歳になるお子さんを調べたら、北部4校分全部合わせても18人しかいない。急激な小子化の問題、働く方たちが多くなって、前は全体の1割くらいしか放課後児童クラブへは行かなかったが、今は3割近くが行くような時代になった。そしてまた、3年生までというのが6年生までということになって、増やしても増やしてもキャパシティが足りない状況になってきている。</p> <p>今年は、放課後児童クラブについて、全校で6時半まで見ることができるよう学校の協力もいただいた。管理上の問題もあるので、トイレなどの水回りも全部別に造らなくてはならず、いろいろと課題はあるが、伊太小学校でも部屋が足りないということ、それからバスでどこかへ行くときの路線等も課題があるということ承ったので、もう一度現場の方にその話を持って行って、検討させていただきたいと思う。</p>
4	<p>■埋蔵文化財の予算が減ってきている。 諏訪原城址の整備にかかる予算が少ない。</p>	<p>●諏訪原城址は全国に名だたる山城である。完成まであと10年以上かかるが、だいぶ整備も進んできた。今年はビジターセンターを造ることだが、埋蔵文化財関連の予算が減っているというのは、国の予算が減り、それに伴い、県の予算が平成28年度は0だった。事業は市が行うが、国の文化庁の予算が全体のうちの2分の1又は3分の1補助というのがあり、事業をしている。</p> <p>文化財、埋蔵文化財の事業について、予算を削っているとか、どうでもいいことだなどというのは、決して思っていない。</p>

		<p>今年は諏訪原城や牛尾山、それから河原町の整備にもずいぶんと予算をかけてやっていく予定である。島田というのはまさに歴史と文化のまちで栄えてきたところなので、そこをないがしろにしようなどとは全く思っていない。</p> <p>公共施設も統合して機能を高めていくような施策をしなければならない。昭和 58 年には小学校 6 校及びおおりを整備したので、いっぺんに老朽化を迎える。</p> <p>また、島田市の道路延長は約 1,180km、橋は 1,154 橋で、5 年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持（長寿命化）していくことがメインとなっている。新たな道路をつくるよりも長寿命化する時代となっている。</p>
5	<p>■ 2 月 7 日の自治推進委員連絡会議で出されたが、敬老会の経費が 75 歳から 80 歳になったと聞いている。</p> <p>伊太区を含め、80 歳に上げてしまうのはおかしいということを、他の自治会長ともお話をしたところ。</p> <p>ただ、地元では 75 歳以上の方を対象として、敬老会を開催したいが、担当に確認したところ、名簿は 80 歳以上といわれた。75 歳までの名簿を提供してほしい。</p>	<p>● 全ての自治会に 75 歳以上の方の名簿を出す。この件については、説明の仕方が十分でなかったと思い、反省している。一つには、今 100 歳以上の島田市民が 70 人を越えるような時代になり、87 歳が平均寿命になって、国も今後 75 歳以上を高齢者と改めたいという考え方も出てきたときに、75 歳までは担い手、いわゆるお世話をする側という、国の方針がだんだんと出てくる中で、80 歳というのは 1 つの目安ではないかと思っているが、いきなり 80 歳で統一しようという話ではない。担当の説明不足で申し訳なかったと思うので、改めてこれについては通知を出したいと思っている。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

